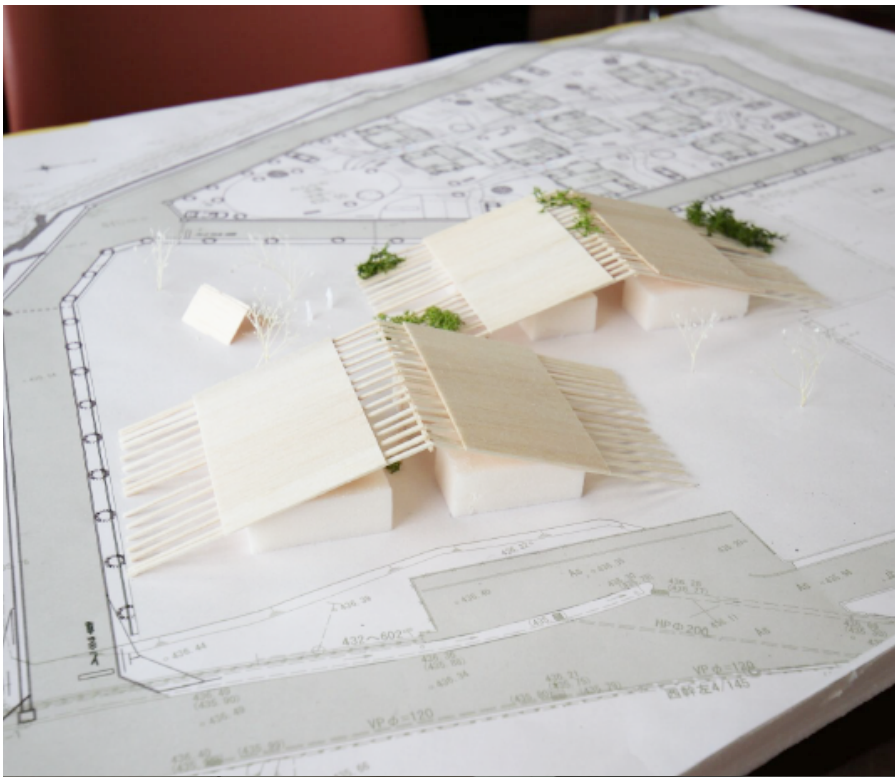

2022.9/16_[土] -17_[日]

第22回

JIA
九州
建築塾

in
くまもと



■ 第 22 回 JIA 九州建築塾 IN くまもと

【主催】公益社団法人日本建築家協会九州支部

【担当】JIA 九州支部熊本地域会

【講師】長野 聖二 (株式会社 長野聖二建築設計處)

原田 展幸 (株式会社 ライフジャム一級建築士事務所)

【会場】ホテルグリーンピア南阿蘇

【日程】2022年9月16日(土)-17日(日)

【塾生】11名



□ 講師プロフィール

長野 聖二（株式会社 長野聖二建築設計處 主宰）

- 1971年 大分県生まれ
- 1996年 熊本大学建築学科卒業
- 2001年 長野聖二・人間建築探険處設立
- 2011年 熊本県立大学非常勤講師
- 2016年 株式会社長野聖二建築設計處設立



受賞歴

- | | |
|-------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 2001年 国際家具デザインコンペティション
2001in大川 審査員特別賞（共同製作） | 2010年 JCD デザインアワード 2010 審査員特別賞
第3回九州建築賞奨励賞 |
| 2003年 第9回くまもとアートポリス推進賞 | 第16回くまもとアートポリス推進賞選賞 |
| 2004年 インテリアプランニング賞 2004 入賞 | 2011年 第9回 JIA 熊本住宅賞 |
| 2008年 熊本鉄骨建築作品優秀賞
第1回九州建築賞奨励賞 | 第17回くまもとアートポリス推進賞選賞 |
| 2009年 第15回くまもとアートポリス推進賞 | 2012年 第18回くまもとアートポリス推進賞選賞 |
| | 2013年 第10回 JIA 熊本住宅賞選考委員賞 |
| | 2014年 第29回豊の国木造建築賞協賛賞
第20回くまもとアートポリス推進賞
(他多数) |

原田 展幸（株式会社 ライフジャム一級建築士事務所 主宰）

- 1973年 熊本県荒尾市生まれ
- 1996年 熊本工業大学建築学科卒業（現 崇城大学）
（株）田中建築設計事務所（熊本）入社
- 2004年 ライフジャム一級建築士事務所設立
- 2012年 株式会社ライフジャム一級建築士事務所に改称



受賞歴

- | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 2008年 JAF 熊本支部設計コンペ 最優秀 | 2019年 西原村買取型災害公営住宅山西団地
くまもとアートポリス推進賞選賞 |
| 2014年 熊本県医師会館プロポーザル ファイナル | 西原村買取型災害公営住宅山西団地
建築九州賞 奨励作品 |
| 2015年 福岡県弁護士会館プロポーザル ファイナル | くまもと県北病院アメニティ施設
プロポーザル 最優秀（提案及び設計協力） |
| 2017年 西原村小森第2 みんなの家 木材活用コンクール
防災対策賞
西原村買取型災害公営住宅（山西・河原地区）
プロポーザル最優秀 | 2020年 長寿の里デイサービスセンター改修プロポーザル 最優秀
熊本県司法書士会館プロポーザル 最優秀 |
| 2018年 御船町買取型災害公営住宅（小坂地区）
プロポーザル 最優秀（提案及び設計工事監理協力）
南阿蘇村買取型災害公営住宅
（下西原第2・長陽西部地区）プロポーザル 最優秀
益城町買取型 災害公営住宅（輝らめき館跡地）
プロポーザル 最優秀 | 2021年 南阿蘇村買取型災害公営住宅 長陽西部・下西原第2 団地
くまもとアートポリス推進賞選賞
球磨村買取型災害公営住宅（渡地区）プロポーザル 最優秀 |
| | 2022年 金森医院移転新築計画プロポーザル（デザインビルド） 最優秀
玉東町役場庁舎建設事業プロポーザル（デザインビルド） 最優秀
(他多数) |

第 22 回 JIA 九州建築塾 in くまもと が以下の日程で開催されました。

9/16 (金)

11:00 熊本駅集合

13:00 災害公営住宅 南阿蘇村長陽西部団地見学

(株) ライフジャム一級建築士事務所+(株) トポスペース建築研究所

(第 25 回アートポリス推進賞選奨受賞)

14:30 震災ミュージアム工事現場見学 (o+h, 産鉦設計 JV)

16:30 ホテルグリーンピア南阿蘇到着

17:00 レクチャー

講師: 長野 聖二氏 (株) 長野聖二建築設計處

原田 展幸氏 (株) ライフジャム一級建築士事務所

18:30 懇親会

20:00 作業開始

9/17 (土)

7:30 朝食

10:00 提案発表+クリティーク

12:30 終了

13:00 解散

※今回の建築塾は 1 泊 2 日の日程という事もあり、課題は事前課題として出しており、当日は案をグループで持ち寄ってまとめていくという作業時間とするようにしておりました。



コロナで2年間延期した後の3年ぶりの熊本での開催となりました。

熊本地震から6年という歳月がたった被災地をみていただく事、アートポリスコンペになった震災ミュージアムの工事現場をみていただく事、地震被害で家を失った人が住む災害公営住宅の施工実例を確認して、塾の課題として災害公営住宅に取り組む事を塾生に行なって頂きました。

塾生は、九州各地から設計事務所に勤務する若い社会人や大学生の11名が参加してくれました。それに加えてJIA九州支部役員9名と熊本地域会会員10名、講師2名の総勢32名で塾生と一緒に現場見学等同行いたしました。

災害公営住宅の南阿蘇村長陽西部団地では、実際に設計を行った(株)ライフジャム一級建築士事務所の前田氏から、計画概要について説明を行って頂き、住宅という個の建築の集まりであるが、その中でのコミュニティ形成ができるような計画の重要性を説明頂きました。長陽西部団地は、高低差処理を兼ねたスロープ状の遊歩道が住戸間にある共用空間である「間守土間」を通りながらみんなの広場に繋がるという計画で、動線操作でコミュニティ形成を計る手法が用いられていました。配置計画も南側向きに平行にずれながら配置され、良好な住環境が形成されていきました。事例見学後、塾生の課題敷地である長陽西部団地横の空き地を提案するグループで見学し、南阿蘇の雄大な自然環境の中での建築的回答をグループ間で協議する姿が見られました。

その後は、震災ミュージアムの工事現場に移動し、基礎工事の段階の現場見学と、設計者であるo+h(産鉦設計JV)のスタッフで現場監理者の坂野さんから、震災ミュージアムのコンペからの変遷や構造の概要、素材の選定内容等をレクチャー頂きました。



■第22回 塾生

富野 紘平	株式会社和田設計
西井 直道	株式会社和田設計
竹山 健太郎	株式会社和田設計
福島 早瑛	株式会社ばん設計小材事務所
河野 利沙	アートレ建築空間一級建築士事務所
末永 慎之介	(株)アーキタンツ福岡
宮下 紋佳	(株)松山建築設計室
富川 ひかる	(株)松山建築設計室
宮田 知治	九州工業大学工学部建設社会工学科
林田 大晟	株式会社マトリックス
中村 謙	山根製作所株式会社

計11名(順不同)

コンペ時は木造での計画から、実施設計完了時に RC、S,W の混構造に変化したものの、形態自体はコンペ時の案に近い形で工事に着手しており完成が非常に楽しみな建物です。

また、28才にして現場監理者を一人で努める坂野さんに驚いたと共に、熱い思いを持って現場を切り盛りする橋本建設の橋本さんをはじめとした現場監督の方々の姿に感激し、塾生も JIA 会員も皆刺激を受けてる様子が見られました。

ホテルに到着後は、(株) ライフジャム一級建築士事務所 の原田氏と (株) 長野聖二建築設計處の長野氏による設計した災害公営住宅についてレクチャーを行って頂きました。

お二人とも数多くの災害公営住宅の建築に携わられており、プロポーザルコンペで切磋琢磨してきた状況をコンペ案と建築実例をもとにお話頂きました。

あるプロポーザルコンペでは原田氏のチームが勝ち、あるプロポーザルコンペでは長野氏のチームが勝つという競合してきた経緯とそれぞれの提案を「個と群」の関係性からお話頂き、提案をまとめる前の塾生の参考になっておりました。

夕食後は、塾生は事前課題で考えてきた案を持ち寄り、女性4人のAチーム、男性4人のBチーム、男性3人のCチームに分かれて案をまとめていく作業に入りました。

夜8時から提案発表の翌朝10時まで14時間しかなく、全チーム寝ずに取り組んでおり、男性3人のCチームは各自の意見をまとめるのに時間がかかっているように見えました。実際、夜中2時頃まで案をまとめるのにかかったようです。

支部役員や熊本地域会会員も協議している様子を見たり、案を聞いている様子が見えつつも短時間でまとめる必要があるため口を出すのは控えているようでした。



翌日の講評会は、A,B,Cの順番で発表を行い、講師である原田氏、長野氏から講評を受けるという形式で進めました。

女性4人のAグループは、敷地西側の山と呼応したような大きな山形の屋根を4戸の住戸に架け、プライベートとパブリックの中間領域を作るという案で、模型まで作成してプレゼンテーションを行いました。

講師からは、各住戸の居住性を指摘されつつも短時間でクオリティーの高い案をまとめた事が評価されていました。

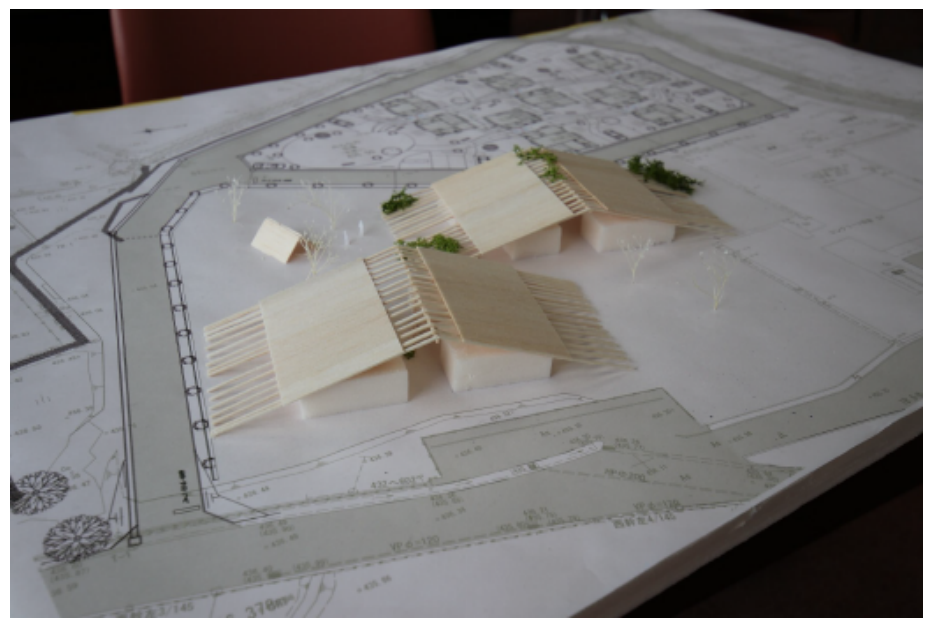


男性4人のBグループは、住戸間の配置計画を「ハの字」で計画し、一定の距離感をとるという事と住戸の中に広い土間空間を作り緩衝空間として利用できるようにする事で個と群の関係について回答した案でした。こちらも模型まで作成してプレゼンテーションを行いました。

講師からは、土間が入る事で住戸面積が大きくなりすぎる事や、「ハの字」に開いた部分の扱いが中途半端な点が指摘されていました。



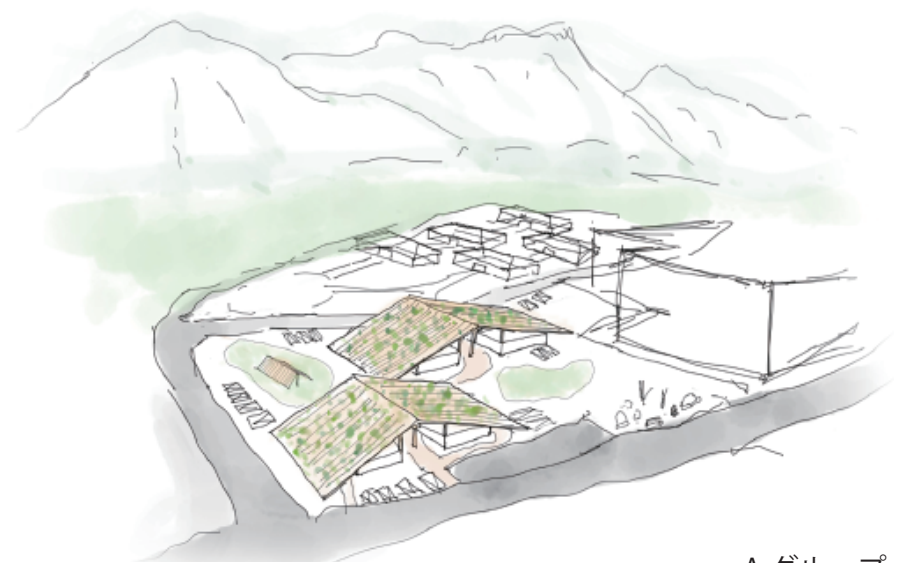
男性3人のCグループは、コミュニティ形成を共通認識から作るというコンセプトのもと、敷地横に学校がある事からグラウンドという共通認識を団地内に作る案を提案いたしました。夜中2時まで案を検討していた事もあり、まとめるまでの時間がなかった事から講師からは住戸内部の計画や、グラウンドの配置について指摘を受けていました。



全部の発表後、九州支部長の松山氏より、女性4人のAチームの案は大胆で面白くなる可能性を秘めている案ではあるものの、この敷地に大きなスケールをもつ建物を作る感性を疑うべきとの指摘を受けました。

また、男性2チームの案は現実的すぎて、面白みに欠けるという指摘を受け、塾生全員に対して学生の頃考えた事が社会人になる事で、提案にブレーキがかかりすぎており、所長世代が若いスタッフに求める事は所長世代が考えられない案を提案の糸口として出してくれる事を期待してる事であるため、まとまり過ぎずに考えて欲しいとの意見を頂きました。

一方で、時間のなかでプレゼンテーションまでまとめ上げ、形にした事は評価すべきとの意見も合わせて頂きました。



Aグループ

最後に、時代の九州の建築を担う塾生に頑張って欲しいとの事と是非将来は、JIA に入会し、次の世代として活躍して欲しいとの思いもお伝えされていました。

こうして、短時間ではありましたが建築塾は無事終了し、塾生も満足して帰っていく様子が見れたのが本当に良かったと思います。

塾生からは感謝の声とともに1泊2日の日程だったため役員や地域会員と十分に話す時間がなく少し残念だったとの声もあり、次回開催はコロナが収束して通常通り2泊3日で多くの塾生に参加いただける事を願っております。

今回、運営のご協力頂きました支部役員の皆様、熊本地域会の皆様、スタッフを建築塾に参加させて頂いた事務所経営者の皆様、講師の長野様、原田様にこの場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

JIA 九州支部熊本地域会会長 林田直樹

C グループ



B グループ

